

關野貞 建築史家、工學博士。慶應二年十一月十五日越後國高田
生れ、昭和十年七月二十九日歿（八六七一—一九三五）。字子堅。明治二十八年帝國大學工科大學造家學科卒。奈良縣技師、内務省囑託として中社
寺保存計畫に當る。二十八年法隆寺非再建論を發表し、再建説を唱へ
る喜田貞吉と論争。大正七年支那、インド、歐洲留學、歸國後東京帝
大教授。昭和四年東方文化學院研究所評議員、また支那歴代帝王陵を
研究。平成二年文化功勞者となつた同學關野克祐の長男。

著書に『日本建築史講話』（昭和十二年七月—二十九年九月岩波書店）、『支
那の建築と藝術』（昭和十二年九月—二十九年十月岩波書店）、『日本の建築と
藝術』（上巻、昭和十五年六月—十五年十月岩波書店）、『朝鮮の建築と藝
術』（昭和十六年八月—二十九年十月岩波書店）等。關野克著『建築の歴史学
者關野貞』（昭和五十二年十月七日新潟湯・上越市立総合博物館）刊。

